

古朴陋の俗の云ひつぎしまゝに亥るされし所也。○中舊事紀に此鳥搖其首尾と見えしを、日本紀に搖讀てタヽクといふと見えたり、ニハタヽキとも、イシタヽキともいふが如きは、即此義によりて、ニハクナブリといふも、ニハタヽキといふが如くなるべけれど、總て其詳なる事は知らず。

〔本朝食鑑五禽鵠鵠訓仁波久奈不利久

釋名鷄鷄源順曰、崔禹錫食經云、鷄鷄貌似燕而高飛作聲者也、鷄鷄音積靈、字或作鶴鵠、日本紀私神卷鵠鵠飛來搖其首尾、二神見之、而學之、卽得交合、故後世賞美之。

集解脊令狀類鵠而青灰色、頸下眼後有黑條、長脛長尾嘴尖腹白胸有黑文、每居水邊鳴而求匹、能搖首尾、一種有交黃色者、呼稱黃脊令、俱世人畜于樊中、樊中貯水石以弄之、亦能馴人焉、或曰、萬葉集稻負鳥者脊令也、未詳。

肉氣味甘冷無毒、主治助陽益精、

〔本朝食鑑六華和異同鵠鵠

詩小雅常棣篇、脊令在原、陸機疏曰、大如鸚雀、長腳長尾、大啄、背上青灰色、腹下白、頸下黑如連錢、或曰、雪姑也、閩書南產志曰、雪姑兒毛羽黑白相間、物類志卽鵠鵠、然李時珍未言之也。

〔大和本草十五小鳥鵠鵠頭小ニ尾長シ、順和名ニトツギヲシエトリト訓ズ、其事日本紀第一ニ見エタリ、又稻負鳥ト云說アリ、未詳、黃セキレイハ少青シ、又一種背黒ク腹白、形少シ短キアリ音ハ同ジ、〔和漢三才圖會四十二〕白頭翁脊黑鵠鵠○中

按有脊黑鵠鵠者、頭腹白而背黑、有原野池沼乃水禽鵠鵠屬也、疑所謂白頭翁是乎、〔喚子鳥上〕させきれい

ゑがい  
粉壹  
生八分  
み入

大きさうぐひすに大ぶり尾ながし、總身あをくろく、むねはら黃色、尾づゝのうら又きなり、さへ